

野村 歡 著
高齢者・障害者の住まいの改造とくふう
新築からリフォームまで

(B 5 変型 200 頁 2730 円 1989 年 保健同人社 刊)

水落 和也

(神奈川県総合リハビリテーションセンター)

著者は永年障害者や高齢者の住環境について研究され、リハビリテーション医学関係の雑誌にも多く論文を発表されている。

本書は著者のこれまでの研究の集大成であるが、住宅改造を必要とする一般の人々のために書かれているため豊富な内容がわかりやすく解説されている。今まで我が国では住宅改造についてまとまった書物がなかったので、我々リハ医学関係者にとって大変参考になる一冊である。

本書は第1章：住まいづくりのいろいろ、2章：快適な住まいづくりをめざす、3章：移動方法からみた間取りのいろいろ、4章：住まいづくりの基本事項、5章：生活動作別にみた住まいづくり、6章：資料、から成っている。1章では脳卒中、リウマチ、脊髄損傷、脳性麻痺など、いろいろな障害を持ち、実際に自宅を新築・改築した代表的な例が平面図と写真

とともに紹介されており、興味深い導入部となっている。2章では住まいづくりの理念、考え方がフローチャートに従って説明されており、一般の人々や医療関係者など専門外の人が住まいを理解する上で大変参考になる。3章は移動様式別の間取りのいろいろが示されているが、ここでも実際に改造した例が数多く紹介されている。

4章は段差、階段、手すりなど改造で特に問題となる箇所についてかなり専門的内容が述べられている。窓、スイッチ、コンセント、水栓などの項目は専門家ならではの細かい配慮といえるだろう。5章では移動、入浴、排泄、起居、調理、だんらん、清掃など生活動作別にみた住宅改造、福祉機器の利用が示されている。今までの書物が部屋別に考えられていたのに対し、使用者の側に立った、大変実用的な発想である。これは全体を通して言えることであるが、著

者は障害者の実際の生活やその介助、日常生活での問題点などについて豊富な知識を持っており、それらはすべて自分の足で集め、目で見て確認した膨大な資料に裏づけられているのである。障害者や高齢者の住環境を少しでも良くしようという著者の情熱がこれを生み出しているのであろう。

6章には住宅関連制度、住宅相談、福祉機器の会社、代表的な機器の価格などが一覧されており、大変実用的な書物になっている。家が狭く、十分な改造ができない場合や資金がない場合（実際にはこういった例が多い）にはどんな解決策があるのかが示されている。より実用性の高い内容になると思うが、本書がリハ医学関係者にとって家庭訪問や家屋改造指導の際に必用不可欠な一冊になることはまちがいない。

最後に一市民としての感想であるが、本書の内容が一般住宅にも当たり前の知識として適用され、改造の必要のない住宅が多く建てられることを望みたい。障害者や高齢者が住みやすい環境は障害のない人々にとっても良い住環境にちがいないからである。